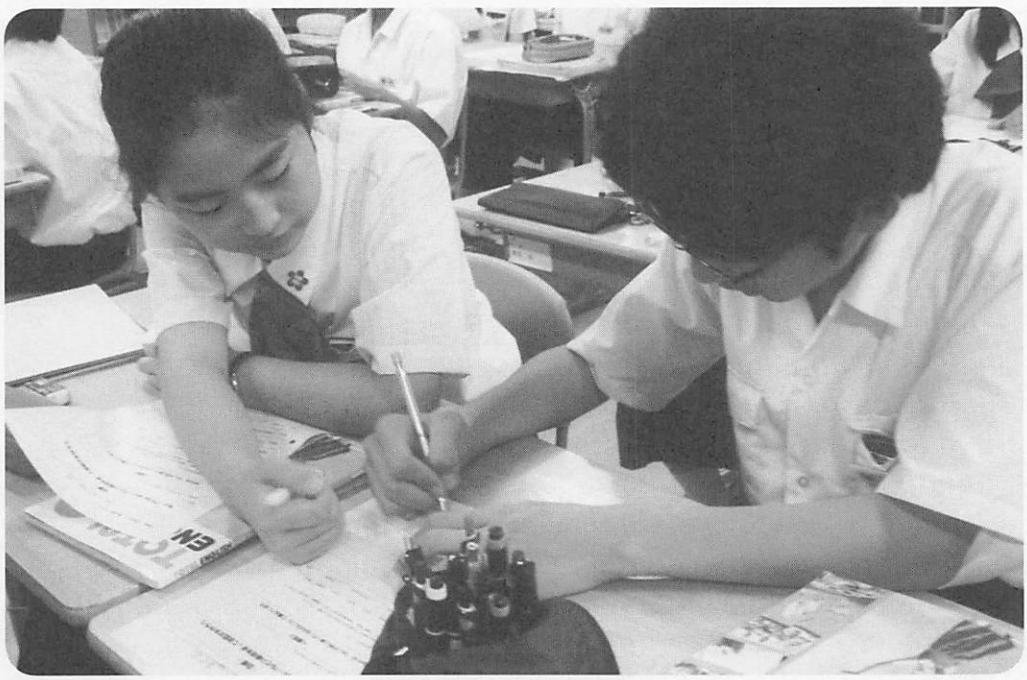
英語科

教科領域研究テーマ

【仲間との関わりの中で，すべての生徒が主体的に
学ぼうとする英語授業】



英語科

仲間との関わりの中で，すべての生徒が主体的に学ぼうとする英語授業

実 践 者　河野　圭美，吉岡　　瞳
愛媛大学研究パートナー　池野　　修

第１章　はじめに

１　研究テーマ設定の理由

21世紀は，世界においてますます経済や社会のグローバル化が進み，異なる文化や歴史的背景をもつ人々との共存や国際協力の必要性が強く求められている。子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していく21世紀の国際社会において，子どもたちが力強く生き抜いていくためには，国際共通語となっている英語を使って，様々な国の人々とコミュニケーションを図っていく力を育成しなければならない。

前年次までの研究において，自分の気持ちや考えを表現し伝える「自立」の力と，仲間の多様な価値観や考え方を認め，共に学び合おうとする「共生」の力を，仲間との関わりの中で「自尊感情」を高めながら育てていくことが効果的であることが検証されてきた。仲間と関わる中で，共に学ぶことの大切さや楽しさを感じ，互いの価値観や個性を認めることは自尊感情の醸成にもつながった。しかし，すべての生徒が自信をもって生き生きと英語で表現したり，自分の気持ちや考えを積極的に述べたりすることができていたわけではない。

そこで本年度は前年次までの課題を踏まえ，基礎・基本のとらえ方を見直し，すべての生徒が主体的に学習活動に取り組み，自信をもって英語で表現することができるような指導を工夫したいと考え，本研究テーマを設定した。

第２章　研究の実際

研究（その１）

教科書本文における「読む」活動の授業改善

（実践者）河野　圭美

１　研究テーマ設定の理由

世界においてますますグローバル化や情報化が進み，異なる文化や歴史的背景をもつ人々との共存や協力は大切であるし，異文化間のコミュニケーションとして英語の必要性は高まっている。コミュニケーション能力とは単語や文法などの知識面のみではなく，実際に情報を共有する中で英語を運用できる力である。インターネットで情報を検索したり，E-mailで情報を交換する機会が増えた今，英語を「読む」ことを通して相手の意向を読み取って理解したり，自分の意見を書いたり伝えたりして表現する力が大切である。また，このことが基礎･基本の力であると考える。教科書本文の指導において，仲間とともに協力しながら主体的に「読む」活動を通して理解力を高め，読解力を深める活動を行いたいと考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容と方法

(1)　本文の内容理解を助けるためのペア学習

今までの教科書本文の内容理解においては，教師による説明が中心の授業であった。教師が一方的に教えるやり方は単調であり，生徒がどれくらい理解しているのか確認しにくかった。そこでペア活動を取り入れ，生徒同士が協力し合い教科書本文の内容について確認し合う場面を設定したい。そうすることによって，より主体的な活動になり，内容理解も深まると考える。

(2)　本文の構造を理解するためのmapping（構造マップ）作成活動

説明文などを読むにあたり，図や絵を書かせてmapping（構造マップ）を作らせることによって，文と文，段落と段落の構造が認識でき，筆者の伝えたいメッセージやキーセンテンス，文の流れが把握しやすくなり，読解力の向上にもつながると考える。

(3)　教科書本文を理解した後に行う自己表現活動

ア　本文のretelling（再話）活動

retellingとは，読んだり聞いたりした内容について，自分で話したり書いたりする活動である。教科書本文を何回か音読した後，mappingを見ながら本文の内容について話していくことで，自然に文章の構造や語彙，語順などを考えることになる。また，本文の内容の理解を深めることにつながる。さらに絵や図を使って英文を覚えることは，暗唱をスムーズにさせ覚えた英文が長く記憶に留まるのではないかと考える。このように，retellingはアウトプットだけでなく，言語理解の定着にも効果が期待できるのではないだろうか。

イ　自分の感想や意見を述べる活動

３年生の教科書の後半では，環境問題，生き方，平和などについて考える深い内容のものが扱われている。そこで生徒たちにもこのような内容について考え，自分の感想や意見を述べる活動を取り入れることによって，筆者のメッセージをより深く感じ取り，読解力が向上するのではないだろうか。学習指導要領では，「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう，書かれた内容や考え方などを捉えること」とある。書かれている内容に目を向け，そこから何を感じ，どう自分の意見を発信していくかが大切ではないかと考える。「読む」ことを，「書く」ことや「話す」ことに関連付けて指導することで，「読む」活動に目的が生まれ，コミュニケーション能力の育成につながると考える。

3　研究の実際

(1)　単 元 名　TOTAL ENGLISH 3　Reading1 Energy and the Environment

(2)　単元目標

観　点	目　標
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	• 教科書本文の内容を，mappingをもとに積極的にretellingしようとする。
表現の能力	• 環境問題について自分の意見や感想を述べることができる。
理解の能力	• 教科書本文を読んで，必要な情報をまとめてmappingを作成することができる。
言語や文化についての知識・理解	• 教科書本文の内容の構造を理解することができる。

(3) 指導計画（全５時間）

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
1A，1Bの本文の内容を理解し，mappingをもとにretellingをする。	◇教科書本文の内容を，mappingをもとに積極的にretellingしようとしている。（コミュニケーションへの関心･意欲･態度） ◇教科書本文の内容の構造を理解している。（言語や文化についての知識・理解）	2
1C，1Dの本文の内容を理解する。	◇教科書本文の内容の構造を理解している。（言語や文化についての知識・理解）	1
1C，1Dにおいて，教科書本文を読んで，mappingを作成しretellingをする。	◇教科書本文の内容を，mappingをもとに積極的にretellingしようとしている。（コミュニケーションへの関心･意欲･態度） ◇教科書本文を読んで，必要な情報をまとめてmappingを作成している。（理解の能力）	1
環境問題について感想を書く。	◇教科書本文を読んで，環境問題について自分の意見や感想を書いている。（表現の能力）	1

(4) 指導の工夫

前述の２「研究の内容と方法」に即して指導の工夫について述べる。

ア　本文の内容理解を助けるためのペア学習

新出単語導入，oral introductionの後，１つあるいは２つのセクションをskimming（拾い読み）やscanning（情報検索読み）により指導を行った。その後，個人で黙読し，もう少し詳しく理解させるようにした。そしてペアを作り，一人が黙読して理解したことを教科書を見ずにいくつか相手に伝えた。もう一人は教科書を見ながらそれを聞き，相手が正しく伝えられているか確認したり，間違っていることなどについて指摘したりした。

イ　本文の構造を理解するためのmapping（構造マップ）作成活動

本文の構造を理解させるため，黙読しながらmappingを作成させた。1A，1Bの内容においては，mappingのプリントにキーとなる語句だけを書き込ませ，1C，1Dの内容においては，最初から生徒自らの力でmappingを作っていく形をとった。

ウ　教科書本文を理解した後に行う自己表現活動

(ア) 本文のretelling（再話）活動

教科書本文の音読練習をした後，自分で作成したmappingを見ながらretellingできるよう練習した。その後ペアを作り，一人がmappingを見ながら相手に伝えた。もう一人は教科書を見ながらそれを聞き，相手が正しく伝えられているか確認したり，間違っていることなどについて指摘したりした。その後，役割交代した。

(イ) 自分の感想や意見を述べる活動

本文の内容をすべて理解した後，話の内容について考えたことや筆者の意見などに対しての感想を５文程度の英語で書いた。その後，グループでそれぞれが書いたものを読み合い，コメントを書いた。

(5) 授業の実際（4／5時間）

ア　主　題　1Cと1Dの内容についてmappingを作って，retellingをしよう

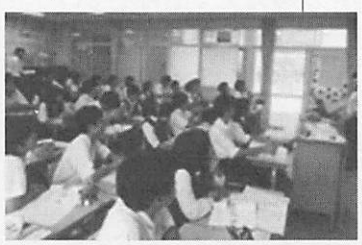
イ　ねらい

○教科書本文の内容を，mappingをもとに積極的にretellingしようとしている。

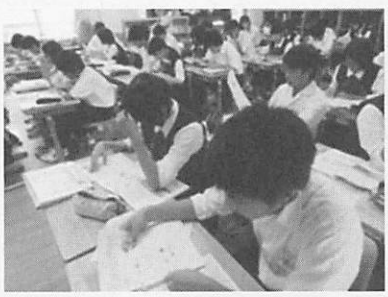
○教科書本文を読んで，必要な情報をまとめてmappingを作成することができる。

ウ　展　開

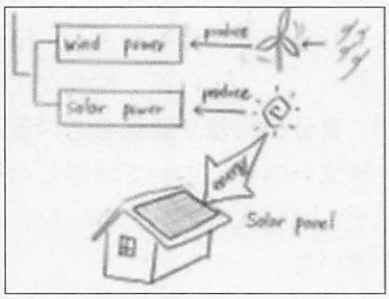
学習活動（形態）	時間	○学習内容	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　フォニックス （一斉・ペア）	5	○発音記号【z】の読み方を知った。	○口の形に気を付けさせた。
mappingを作って1Cと1Dの内容をretellingをしよう			
2　前時の復習（一斉）	5	○1Cと1Dの本文の内容を英語で聞いて確認した。	○本文の内容を理解しやすくするために，ピクチャーカードを用いた。
3　mappingの作成 （個人）	10	○1Cと1Dの内容を絵やキーワードなどを用いてmappingを作成した。	○mappingの活動に抵抗なく取り組めるように，1Cと1Dの内容の要約文の後半部分について作成させた。 ◇教科書本文を読んで，必要な情報をまとめてmappingを作成することができる。（ワークシート）
4　音読練習 （一斉・個人・ペア）	10	○さまざまな音読練習を行った。 • コーラスリーディング • ペアリーディング • 名詞（動詞）抜きリーディング • スピードチェンジリーディング • インディヴィジュアルリーディング	○スムーズに暗唱できるようになるために，段階を踏んで練習させた。 ○音読練習に飽きさせないよう，さまざまな音読方法を用いた。
5　retellingの練習 （個人）	5	○自分で作成したmappingを見ながら練習した。	



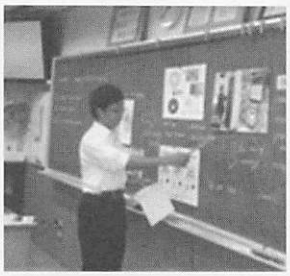
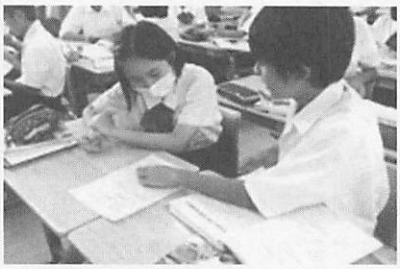
ICT活用により音読練習する様子



個人で練習する様子



生徒が作成したmapping

6　retellingの発表 （ペア，一斉）  全体発表の様子	10	○mappingを見ながら相手にretellingをした。  ペアでretellingする様子	○聞いている人に，相手が正しく読めているかモニタリングをさせた。 ◇本文の内容を，mappingをもとに積極的にretellingしようとしている。（観察）
	5	○２，３人の生徒が全体の場で発表した。	

５　成果と課題及び考察

(1)　実践後のアンケート調査より

本実践後，生徒に対してペアでの本文内容理解の活動やmappingを用いてretellingを行った活動についてアンケート調査（３年生81名）を行った。その結果と自由記述を以下に示す。

表１　授業後アンケートの結果　対象者：３年生２クラス（81名）（%）

質　問　項　目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
ペア活動は，教科書本文の内容について確認するのに役立った	**23**	**70**	6	1
〈生徒の感想より〉 ○英文の要点をうまくつかむことができた。 ○ペアの人との仲を深めることができた。 ○友達に間違っているところを直してもらえてよかった。 ○重要な箇所を読み取る力が身に付いた。 ○先生に文法を説明されてメモをとるより頭に入りやすかった。 ○分からないところは２人で教え合って理解することができた。 ●内容が分からないときに説明ができなくて困る。 ●英語が得意ではない人が説明する立場になったら，説明するのは難しいと思う。				

質　問　項　目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
図や絵を使ったmappingのプリントは，教科書本文の内容を理解するのに役立った	**57**	**36**	6	1
〈生徒の感想より〉 ○英文が簡単にまとめられていて分かりやすかった。 ○自分で理解しようとする気持ちが高まった。				

質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
1Cと1Dで行ったmappingを作成する活動は，教科書本文の構造を整理しながら理解するのに効果的だった	**38**	**53**	9	0

〈生徒の感想より〉
○自分が分かるように本文を読みながら書くので，頭に入りやすかった。
○文を書くことよりも楽しく，絵や図を書くことで英文を思い出しやすい。
○自分でまとめて整理する力や表現する力が身に付いた。
○自分で描いたものは頭に残る。
○文の構成を目で見ることができた。
○自分で作成することで，理解できていないところがよく分かった。
○難しい英文でも分かりやすく読み取ることができた。
●教科書にも絵はあったからあまり効果はなかった。
●友達と共有できればもっと印象に残ったと思う。

質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
mappingを使ってretellingを行う活動は，教科書本文を自分の言葉で表現するのに効果的だった	**54**	**37**	9	0

〈生徒の感想より〉
○絵と文字がつながるので，英文をイメージしやすく，本文が覚えやすかった。
○自分の言葉で考えて英文を言うため，力が付くと思った。
○頭の中で思い浮かべながらできて，分かりやすいし英文が身に付きやすかった。
○このような学習を通して，英語に興味が湧いてきて楽しくなった。
○自分の中の英語を引き出す活動でいいと思った。
●本文の内容をそのまま覚える方が覚えやすかった。
●ある程度は定着したが，重要表現（連語など）を重点的にやった方がよい。
●効果まで考えて行わなかった。

(2) 考察

前述の指導の工夫に沿って考察を示す。

ア 本文の内容理解を助けるためのペア学習

本文の内容理解をペアで行わせることによって，自ら積極的に本文と向き合い理解しようとする姿が見られ，教師が説明するよりも理解させることができたのではないかと思う。また，仲間と関わりながら学ぶことの楽しさを味わわせることができた。しかし，英語が苦手な生徒にとっては英文を読んで理解することができず，説明に困っていた。教師の発問を工夫するなど，英語が苦手な生徒も説明できる手立てを考える必要がある。

イ 本文の構造を理解するためのmapping（構造マップ）作成活動

今回取り組んだ単元は「エネルギーと環境」をテーマにしており，本格的な説明文である。生徒の中には内容理解を難しく感じる者がいたり，日本語に訳すことが理解につながると思っている者もいたりする。しかし，説明文の内容には「構造」があり，その「構造」を整理して理解することが説明文を読み取る上で大切である。単元の前半は教師が作成したmappingに所々空白を作っておき，単語を埋めていくワークシートにし，単元の後半は最初から生徒自らがmappingを

作成する形をとった。多くの生徒がmappingの活動を支持しており，目的や効果を感じることができた。mappingを取り入れ，英文を絵や図で表したことは，生徒の理解を助け文構造を理解するのに役立った。さらに，英文をイメージで覚えることができ，覚えた英文が頭に残るとアンケートで答えていた生徒がいた。しかし，課題としては自分でmappingを作成することは難しいと感じる生徒が若干いた。ペアやグループ活動を取り入れてmappingを作成させたり，自分が作ったmappingを友達と共有させたりするなどの工夫が必要であった。

ウ　教科書本文を理解した後に行う自己表現活動

(ア)　本文のretelling（再話）活動

retellingができるようになるために，教科書本文の英語を何度も音読させた。そうすることで英語を日本語に介さずに英語のままで理解し，暗唱できるようになった生徒がいた。また，retellingを行うことは文法や語順など考えながら話すことでもあり，個人がもつ英語を活用する力を引き出すことにもつながった。しかし，retellingを行うことに時間がとられることで，重要文型の説明がおろそかになってしまい，その点について不安を感じた生徒がいるため，今後はバランスのよい授業展開をしていきたい。また今回のretellingでは，ほとんどの生徒が教科書の英文そのままを伝える形になってしまったので，さまざまな文法・語彙を使って別の表現に言い換えたり，教科書の英文をまとめて話したりできるような指導方法を考えていきたい。

(イ)　自分の感想や意見を述べる活動

本単元を学んだ後に，「感想」「これからの社会のために大切なこと」「自分ができること」などについて５文程度の英語で書かせた。その際，“It is ～ for…to-”“I think (that) ～”“I want to ～”の３つの表現を使って書くようにさせたことで，英作文が苦手な生徒にとって抵抗なく取り組むことができた。その後，グループになってお互いの感想を読み合い，コメントを書く活動も全員が集中して取り組んでいた。しかし，教科書の英文そのままを使って書いていたり，２，３文程度しか書けなかったりする生徒がいたので，今後もこの活動を続けることで，文の数を増やし自分の言葉で表現できるよう指導したい。

(3)　今後の研究の方向性

本研究において，本文の内容理解をより主体的で理解を深める活動にするために，ペア活動やmappingを取り入れたことや，自分の感想や意見を表現する力を育成するためにretellingやopinion writingの活動を行ったことで，いくつかの成果が見られた。しかし，すべての生徒が主体的に取り組んでいたことにはつながらず，学び合いの活動になっていなかったペアがあったことが課題である。次年度の研究では，英語が苦手な生徒への細かな配慮や手立てを行いながら，すべての生徒が伸びていくよう取り組んでいきたい。また，今後さらに生徒が英語を使って生き生きと自己表現するような授業を目指していきたい。

研究（その2）

ユニバーサルデザインの発想を取り入れた授業改善

（実践者）吉岡　　瞳

1　研究テーマ設定の理由

すべての生徒が英語に興味をもって主体的に学び，習得した知識をうまく活用しながら学びを深めることができるような授業づくりをするために，今年度はユニバーサルデザインの発想を取り入れ，授業の改善を図った。仲間と関わるペア学習や視聴覚機器の活用などを効果的に取り入れ，４技能をうまく組み合わせた言語活動を段階的に行うことで，「分かった」「できる」と実感し，身に付いた知識を活用して英語で表現しようとする生徒を育成する。このようにユニバーサルデザインの発想を取り入れた授業を行い，すべての生徒が生き生きと学んでいくことで，「持続可能な社会の形成に向け，自らを活かす生徒の育成―すべての生徒が伸びる学びの追求―」に迫ることができると考え，本研究テーマを設定した。

2　研究の内容と方法

(1)「分かった」「できる」と実感できる学習活動の工夫（視覚化）

学習内容をイメージしやすくするために，視聴覚機器を活用し，ワークシートや板書において学習活動が視覚化されるよう工夫する。ワークシートには，英語が苦手な生徒が楽しく取り組めるように，つまずきそうなところを予想し，手がかりとなる表現やイラストなどを載せる。板書には学習活動で必要な表現を精選してまとめ，一目で大事なポイントが分かるようにする。

(2) 集中して取り組み自信をもって表現することができるようになる授業構成の工夫（焦点化・展開の構造化）

学習のねらいを明確にすることで焦点化を図り，授業の展開を構造化しテンポよく進めることで，最後まで飽きずに集中して授業に取り組めるようにする。授業の構成を，最初は簡単な課題から始めて，徐々に難しい課題へとレベルが上がっていくようにすることで，自信をもって英語で表現することができるようにする。

(3) 仲間と関わり，学びを深めるための学習（共有化）

仲間と共に学びを深めていくために，ペアや４人組で行う学習活動を効果的に取り入れる。自分の意見を相手に述べることで考えを整理できたり，相手の意見を聞いて自分の考えを発展させたりする。また互いに協力して様々な課題に取り組むことで，達成できたときの喜びを分かち合い，互いのよさを認め合う関係が築かれていく。

3　研究の実際

(1) **単 元 名**　TOTAL ENGLISH 1　Lesson2　先生に聞いてみよう

(2) **単元目標**

観　点	目　標
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	• 名詞の単数形・複数形，疑問詞What ～？を用いた疑問文，How many ～？を用いた疑問文，命令文を用いて積極的に表現しようとする。

表現の能力	• 名詞の単数形・複数形，疑問詞What ～？を用いた疑問文，How many ～？を用いた疑問文，命令文を用いて相手に尋ねたり適切に応答したりすることができる。
理解の能力	• 名詞の単数形・複数形，疑問詞What ～？を用いた疑問文，How many ～？を用いた疑問文，命令文を読んだり聞いたりして，内容を理解することができる。
言語や文化についての知識・理解	• 名詞の単数形と複数形の違いを理解することができる。 • 疑問詞What ～？を用いた疑問文，How many ～？を用いた疑問文，命令文の文構造を理解することができる。

(3) 指導計画

学習内容	◇評価規準（観点）	時間
名詞の単数形と複数形を理解する。	◇名詞の単数形と複数形の違いを理解している。（言語や文化についての知識・理解）	2
疑問詞what ～？を用いた質問文と答え方を理解し表現する。	◇疑問詞What ～？を用いた疑問文を使って，相手に尋ねたり質問に答えたりしている。（表現の能力） ◇疑問詞What ～？が使われた疑問文を読み，内容を理解している。（理解の能力）	2
数を尋ねる質問文と答え方を理解し表現する。	◇数を尋ねる表現などを用いて，自ら進んで相手と会話をしようとしている。（コミュニケーションへの関心・意欲・態度） ◇数を尋ねる表現を用いて相手に尋ねたり，質問に答えたりしている。（表現の能力）	3
命令文を理解し表現する。	◇相手が言った命令文の内容を理解している。（理解の能力）	1

(4) 指導の工夫

前述の２「研究の内容と方法」に即して，指導の工夫について述べる。

ア 「分かった」「できる」と実感できる学習活動の工夫（視覚化）

まず，導入の部分ですべての生徒が英語に興味をもって授業に取り組めるように，数字の読み方の確認を一斉に行った。数字は視聴覚機器を用いて提示し，アクセントのある部分は色を変えて，どの部分を強く読むのか分かりやすくした。

その後，すごろくトークや会話文作成活動で使用するDo you ～？や疑問詞whatを使った疑問文，数を尋ねる表現を板書して目で見て確認できるようにした。内容を１つずつ整理しながら目で確認することで，どのようにしてこれらの表現を使っていくのかイメージしやすくした。すごろくトークのワークシートには，英語を苦手としている生徒が楽しみながら英語で尋ねることができるように，答えのヒントとなるようなイラストを所々に載せた。

会話文作成活動ではワークシートに，会話文を書くときのポイントや生徒が使いそうな単語を予想して書いた。また，どんな場面でどんなふうに会話文を書き出したらよいか戸惑う生徒がいることも予想されたため，会話文の出だし部分と場面設定は指定した。

＜目標＞ What～?や How many～?などの表現を使って会話文を作ろう。

≪場面≫ Nanaは，Takuが手に持っている物について尋ねています。

＜会話文を書くときのポイント＞

① What～?あるいは，How many～?の英文のどちらかは１回使ってみよう。

② Oh! Wow! Really? That's nice! How about you?などの言葉もうまく使ってみよう。

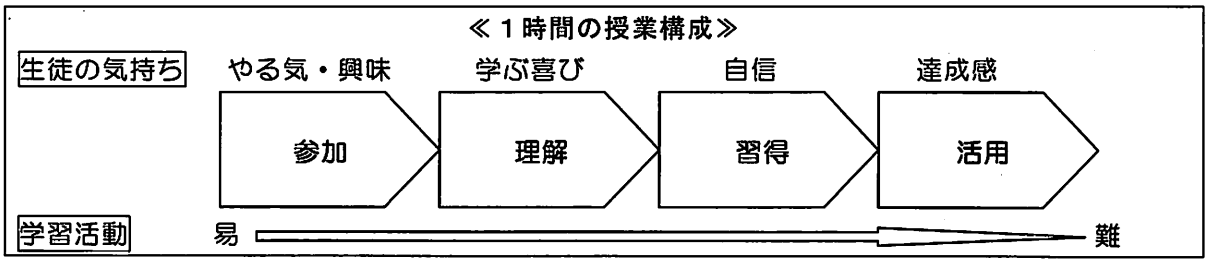
Nana	Hi, Taku.
Taku	Hi, Nana.
Nana	What do you have?
Taku	I have _____ .

資料１　会話文作成活動時のワークシート

イ　集中して取り組み自信をもって表現することができるようになる授業構成の工夫

（焦点化・展開の構造化）

資料２が，１時間の授業構成を表している。示されている授業の流れに沿って説明する。



資料２　１時間の授業構成を表した図

授業構成の「参加」の場面では，ペアで順番に数字を言っていき，最後に21と言った方が負けというゲームを行った。どの生徒も楽しく取り組み，明るい雰囲気で授業が始まるよう，ルールが単純で分かりやすいゲームを取り入れた。

「理解」の場面では，疑問詞whatや数を尋ねる表現などを取り入れたティーチャートークを聞かせた。どんな内容なのか集中して聞くよう，聞き取ってほしい事柄を示しておいた上で２回聞かせ，全体で内容を確認した。話は身近な話題の内容にし，これらの表現が実際の会話でどう使われているのか気付かせ，使ってみたいと思わせるようにした。

「習得」の場面ではすごろくトークを行った。どの生徒も安心して取り組めるように，始めの質問文はDo you like soccer?等，与えられた質問文をそのまま読むことから始め，途中からは相手の答えを予想して質問文を考えさせたり，必要な単語を入れながら自ら考えて質問文を作らせたりすることで，習得した知識を活用して表現する力を身に付けられるよう工夫した。また英語が得意な生徒が簡単な内容で飽きてしまわないように，質問に答える際には，Yes，Noだけの答えの場合には，もう１文加えて新たな情報を相手に伝えるよう指示した。

「活用」の場面では，これまでの学習活動で理解し習得した知識を応用して，ペアで会話文を作るようにした。この会話文のモデルが，授業の始めに生徒に聞かせたティーチャートークとなっている。

このように学習のねらいを明確にし，そのねらいを達成するために様々な学習活動を段階的に行い，自信をもって英語で表現する力を身に付けた上で，最後に難しい課題に取り組ませる授業の構成を意識して行った。

ウ　仲間と関わり，学びを深めるための学習（共有化）

「活用」の場面で，個人で考えた会話文をペアでさらに発展させて新しい会話文を作る学習活動を行った。ペアで，互いに考えた会話文を紹介し合った後，よい表現だと思ったものはそのまま使ったり，新しいアイデアを取り入れたりして，ペアで協力して新たに会話文を作らせた。ペアで様々な意見を出し合わせることで，一人では思いつかなかった表現を思いついたり，相手が考えた表現のよさに気付いたりして，共に学びを深めることができるよう工夫した。

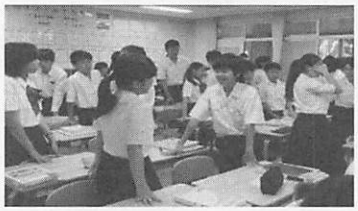
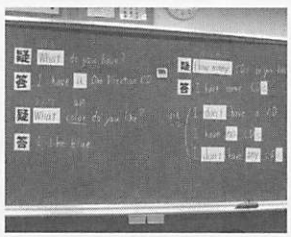
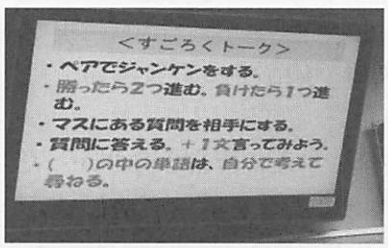
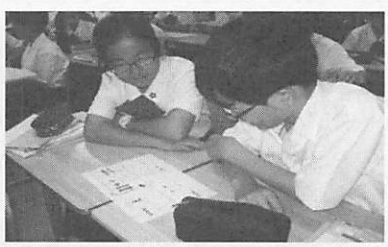
(5)　授業の実際（7／8時間）

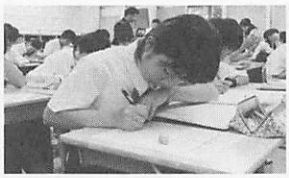
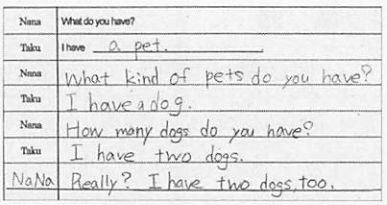
ア　主　題　What ～？やHow many ～？などの表現を使って会話文を作ろう。

イ　ねらい

○　疑問詞What ～？や数を尋ねる表現などを使って，積極的に英語で表現しようとする。

ウ　展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価（方法）
1　数字の読み方の復習をする。【参加】（一斉・ペア）	5	○数字の読み方を復習しよう。  数字ゲームをしている様子	○視聴覚機器を使い，アクセントの色を変えてどの部分を強く読むのか分かりやすくした。 ○授業への興味を引き出すために，簡単な数字ゲームを行った。
2　数を尋ねる表現や疑問詞What ～？が会話の中でどのように使われているか確認する。【理解】（一斉）	10	○ティーチャートークを聞き，分かったことを発表しよう。 ・数字は聞き取ることができた。 ・知らない単語も聞こえた。	○実生活でもよく使う実用的な表現だと気付かせるために，話は身近な話題の内容にした。 ○集中して話が聞けるように，聞き取ってほしい事柄を事前に伝えた。
		What ～？やHow many ～？などの表現を使って会話文を作ろう	
3　数を尋ねる表現や疑問詞What ～？を使って相手に尋ねたり答えたりする。【習得】（ペア）  板書	10	○すごろくトークを楽しもう。 ・Do you ～？の疑問文は簡単だからすぐに言えた。 ・自分で質問を考えないといけないのは難しい。  視聴覚機器の活用	○活動へのイメージがわきやすいように既習の表現を繰り返し音読させ，全体で使用する表現を整理して板書した。  ペアですごろくトークを楽しむ様子 ○既習の表現を活用して質問することができるように，いく

4　ティーチャートークをもとに，自ら考えて会話文を作る。【活用】 （個人→ペア）  個人で会話文を作る様子	25	○ティーチャートークの会話文を参考にして，ペアで協力して会話文を作成しよう。 ・会話の流れをよく考えて質問していこう。 ・話が続くように，相手の答えをしっかり聞いて尋ねよう。  ペアで会話文を作る様子	つかのマスでは，自ら質問文を考えて尋ねるようにさせた。 ○スムーズに会話文を書き出すことができるように，出だし部分と場面設定を指定した。 ◇疑問詞What ～？や数を尋ねる表現などを使って，積極的にペアで会話文を作ろうとしているか。（観察，ワークシート）  ペアで考えた会話文

Nana　What do you have?
Taku　I have a pet.
Nana　What kind of pets do you have?
Taku　I have a dog.
Nana　How many dogs do you have?
Taku　I have two dogs.
NaNa　Really? I have two dogs too.

4　成果と課題及び考察

(1)　研究の成果と課題

前述の指導の工夫に沿って，事後アンケートや研究協議での話し合いの結果などから研究の成果と課題を示す。生徒の感想では，○は英語が得意な生徒，◇は英語が苦手な生徒が書いた感想である。

ア　「分かった」「できる」と実感できる学習活動の工夫（視覚化）

表１　授業後のアンケートの結果　対象者：１年生１クラス（40名）（%）

質問項目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①数字を復習する時，パワーポイントで数字を示し，アクセントのある部分は色を変えていたので発音しやすかった	**62**	**33**	5	0
②全員でこれまでに習った表現を復習し，それらの英文が黒板に掲示されたので大事な表現として確認できてよかった	**64**	**31**	5	0
③会話文を作成する時に，ワークシートには会話文の書き出し部分と場面設定が指定されていたので，スムーズに書き出すことができた	**67**	**28**	5	0

〈生徒の感想より〉
○疑問詞を使った表現の仕方を黒板で確認することによって，活動内容をしっかり理解して始めることができたのでよかった。
○会話文の作成は，場面設定がされていたので書きやすかった。
◇パワーポイントでアクセントのある部分を黄色で示していて，どこを強く発音したらいいか分かり，きちんと発音することができた。

イ　集中して取り組み自信をもって表現することができるようになる授業構成の工夫

（焦点化・展開の構造化）

表２　授業後のアンケートの結果　対象者：１年生１クラス（40名）（%）

質　問　項　目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①数字ゲームは，ルールが簡単で理解しやすく楽しく取り組めた	**77**	**18**	5	0
②ティーチャートークを聞いて，疑問詞What ～？や数を尋ねる表現How many ～？を実際の会話で使ってみたいと思った	**70**	**26**	2	2
③すごろくトークでは最初の質問はDo you like soccer? 等，比較的簡単な表現から始められたので，自信をもって取り組めた	**72**	**26**	2	0
④すごろくトークでは，相手に聞きたい内容を考えて質問することができた	**73**	**23**	2	2
⑤すごろくトークは，簡単な質問から難しい質問となっていたので，楽しみながら活動に取り組めた	**65**	**26**	7	2
⑥すごろくトークではYes，Noだけの答えではなく，プラス１文を意識して答えることができた	**65**	**30**	5	0
⑦会話文作成活動では，ティーチャートークの内容やすごろくトークの質問や答え方が参考になった	**55**	**38**	5	2

〈生徒の感想より〉

○すごろくトークはとっさに文を思いついて質問や答えを言うので，いいトレーニングになって，今まで習ったことを活かせたと思うのでよかった。

◇ティーチャートークを聞いてどんな文が読まれたのか分からなかったけれど，ＣＤの枚数を聞いていることは分かった。

◇トークする時に，Yes，Noの他に１文足すのは難しかったけれど，１文プラスすることで会話が増えて，その後からの学習に活かすことができるんだと思った。

ウ　仲間と関わり，学びを深めるための学習（共有化）

表３　授業後アンケートの結果　対象者：１年生１クラス（40名）（%）

質　問　項　目	はい←			→いいえ
	4	3	2	1
①ペアで会話文を作る際，自分の考えや意見を積極的に述べることができた	**65**	**30**	5	0
②よい会話文になるように，互いに協力しアイデアを出しながら作ることができた	**55**	**36**	7	2
③協力して会話文を作ることは，互いのアイデアを知ったり，表現の仕方を知ったりするのに有効的だった	**58**	**38**	4	0

〈生徒の感想より〉

○会話文を作る時，すごろくトークで使った単語を活用でき，ペアの子にほめられたので嬉しかった。お互いのよいところを組み合わせてたくさん考えたので，できた時は達成感があった。

◇自分ではなかなかいいアイデアが浮かばなかったけれど，ペアで考えると次々にいいアイデアが浮かんだのでよかった。ペアの話し合いは，とてもよいことだと分かった。

(2) 研究協議より

本実践授業における公開授業での研究協議において，参観者から次の意見を得た。

○言葉は少なく指示が分かりやすかったので，英語を苦手と感じている生徒は，どんなことをするのか理解し，進んで表現しようとしていた。

○ティーチャートークやすごろくトークが，会話文作成活動につながる支援になっていた。

●できた喜びや相手からのアドバイスが嬉しかったなどの言葉を全体の場で言える機会がもう少しあれば，自尊感情をさらに高めることができたのではないかと思う。

●会話文作成活動では，個人で考えたものをもとに，さらにペアで考えを融合させて会話文を作るのは難しいと思った。

(3) 考察

ア 「分かった」「できる」と実感できる学習活動の工夫（視覚化）

数字の確認でパワーポイントを使って，強く発音する部分の色を変えることで，生徒にとってどこの部分を強く読んだらいいのか視覚的に理解しやすくなり，意識しながら発音練習に取り組むことができた。板書は，全員でこれまでに学んだことや発表したことが順序良く整理され，ひと目でどれが大事な表現なのか分かるような形で残したことで，学習活動でつまずきそうになったら確認する姿が見られた。すごろくのワークシートにはヒントとなる表現などを載せたり，簡単な質問から始めたりすることで，英語が苦手な生徒にとって，学習活動の早い段階でそれらが手がかりとなり，最後まで自信をもって言語活動に取り組める支援になっていた。会話文作成活動では，会話文の出だし部分と場面設定を指定したことで，個人で考えることについては最後まで一生懸命取り組み，疑問詞などをうまく活用しながら取り組むことができていた。英語が得意な生徒にとっても苦手な生徒にとっても，大事な表現や知りたい表現が板書やワークシートなどに形として残っていることは，どの生徒にとっても大変役に立っており，安心して授業を受けられる支援になっているということが分かった。しかし，アンケート結果からすべての項目において「２」と答えた生徒が若干名いたことから，学習活動の視覚化をさらに図る必要がある。

イ 集中して取り組み自信をもって表現することができるようになる授業構成の工夫

（焦点化・展開の構造化）

数字ゲームをし，すべての生徒が授業に興味をもって取り組める学習の雰囲気を作った後，ティーチャートークを聞かせることで，学習のねらいを明確にした。生徒はどんなことを学習していくのか理解した上で授業に取り組めることができた。一体どんな話なのか，話の内容を理解しようと興味をもって聞き，また会話文作成活動でティーチャートークに負けないような内容にしようと意欲的に取り組む姿勢が見られた。英語が苦手な生徒にとっては，聞き取ってほしい事柄を事前に伝えておくことで，話の内容を完璧につかめなくても，少し単語が聞きとれたり，話の概要がなんとなく分かったことに喜びを感じたりしていた。すごろくトークでは英語を得意としている生徒は，相手と同じような答えにならないように考えたり，これまでに既習した表現を使って会話が広がる楽しさを実感したりすることができていた。英語が苦手な生徒にとっては，Yes，Noだけでなくプラス１文加えて答えることや質問を考えることは，最初難しいと感じていた。だが同じような質問や答えを繰り返すことで，表現の仕方が徐々に理解でき，最後は楽しく取り組むことができた。また質問文の難易度を簡単なものから難しいものにすることで，得意な生徒は習った表現をうまく活用しながら，学習活動に最後まで集中して取り組むことができていた。また，学習のねらいを達成するために，簡単な学習活動から徐々に難しい学習活動へとレベルが上がっていく授業を構成することで，授業の前半に自信をもって英語で表現し，難しい課題

にも主体的に取り組む生徒の育成につながった。

ウ　仲間と関わり，学びを深めるための学習（共有化）

会話文作成活動では，個人で考えた会話文を紹介し合った後，そのまま会話文を使ったり新しいアイデアを出したりして，協力して新たに会話文を作ろうとしていた。しかし会話文作成活動ではペア学習にした際に，個人で取り上げた話題が違いすぎて，１つの会話文にするのに四苦八苦しているペアがあった。ペア学習がスムーズにできるように，会話の出だし部分をもう少し吟味しておくべきだったと課題が残った。しかし，どの生徒も仲間と関わりながら行う活動で，その過程でこれまで知らなかった相手の意外な一面を知ったり，分からないことを教えてもらう安心感を得たりしていた。生徒から今後もペア学習などを取り入れてほしいという要望があるため，学習活動の内容に応じてこのような学習形態をとり，仲間と関わり学びを深められるような工夫を行っていきたい。

(4)　今後の研究の方向性

すべての生徒が，「分かった」「できる」と実感しながら主体的に学んでいくように，ユニバーサルデザインの発想を取り入れながら授業改善を行った。視聴覚機器で学習活動の視覚化を図って学習内容をイメージしやすくし，また習得した知識をうまく活用しながら英語で表現できる場を設定した。ほとんどの生徒が，学んだことを活かしながら集中して授業に取り組むことができていた。しかしながら，すべての生徒が伸びることができたかと問われると，十分な授業改善が図れたとは言い切れない。これからは仲間と関わり合い，互いのよさを認め合う場を設けた学習活動等を取り入れることで自尊感情を高め，また生徒がつまずきそうなところをさらに具体的に予想した上で個別の配慮を行い，どの生徒も主体的に学ぼうとする魅力ある授業を作っていきたい。

参考文献

小貫悟・桂聖（2014）「授業のユニバーサルデザイン入門―どの子も楽しく「わかる・できる」授業のつくり方―」東洋館出版社

授業のユニバーサルデザイン研究会　桂聖・石塚謙二（2013）「授業のユニバーサルデザインVol.6」東洋館出版社

授業のユニバーサルデザイン研究会　桂聖・石塚謙二・廣瀬由美子（2014）「授業のユニバーサルデザインVol.7」東洋館出版社

小笠原喜一・伊藤護（2014）「総合教育技術９月号」小学館

第３章　おわりに

研究（その１）では，教科書本文における「読む」活動を通して授業改善を行った。本文の内容理解においてペア学習やmapping作成を取り入れたことは，主体的に「読む」ことにつながり，理解力を深めることができた。また，本文内容理解の後，retellingやopinion writingなどの自己表現活動を取り入れることで，４技能を統合的に身に付けることができ言語習得にも効果的であった。今後さらに「読む」活動を通して，きめ細かな配慮や手立てを工夫することで，すべての生徒が読解力を深め，自分の感想や意見を堂々と表現できる姿を目指していきたい。

研究（その２）では，ユニバーサルデザインの発想を取り入れた授業改善を行った。学習活動を視覚化することで　自信をもって活動に取り組んだり安心して授業を受けられたりする支援になっていた。授業構成において展開を構造化させたことで，授業に集中して取り組むことができ，学習課題のレベルを少しずつ上げていくことで，自信をもって英語で表現していくことができた。また，仲間と関わりながら学ぶことで新たなアイデアが生まれ学びを深めることができた。

研究全体を通して，今後も生徒一人一人を大切にした指導を行い，すべての生徒が「分かる・できる」と実感し，主体的に学ぶ生徒を育成できるような授業を目指していきたい。